



つよい子

余市町立大川小学校 学校だより
第4号
令和8年5月27日発行

【令和8年度重点目標】・自分の思いを語り、相手の考えを認め、自己調整しながら主体的に学ぶ子どもの育成
・『心・環境・関係』を整え、自ら考えて行動する子どもの育成

「やってみよう」…が ひらく未来

～ 可能性の芽を育てる教育活動をめざして ～

校長 大山 敏広

◆校庭の木々の緑が一段と鮮やかになり、すがすがしい風が吹き抜ける季節となりました。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動への温かいご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。
いよいよ30日(土)、スポーツフェスティバルを開催します。現在、グラウンドには、のびのびと体を動かし、元気いっぱいの声を響かせる子どもたちの活気あふれる姿が見られます。



◆本校の素晴らしい伝統のひとつに、「異学年間の絆」があります。低中高学年に分かれてのブロック練習でも、上の学年の子どもたちが後輩へ優しく丁寧に表現運動(よさこい等)のコツを教える姿が随所に見られました。この「思いやりのバトン」が受け継がれていることも本校の誇りです。

◆運動が得意な子も、苦手意識がある子もいます。しかし、小学校というこの成長著しい大切な時期に、私たちが最も育みたいのは、「まずは、挑戦してみよう。やってみよう。」という真っ直ぐな姿勢です。「どうせ無理だから」「失敗したらどうしよう」と、先々の結果までをも予想しすぎて、自分の可能性の芽を摘んでしまうことほどもったいないことはありません。スポーツフェスティバルも可能性を広げるチャンスのひとつと考えています。

◆**徒競走**では、順位に関わらず「自分の限界」に挑む強さを。

運命走では、何が起こるかワクワクしながら、純粋に体を動かす楽しさを。

団体種目では、一人ひとりが自分の役割をしっかりと果たす満足感を。

表現運動(よさこい等)では、みんなの心が一つになる喜びと、やり遂げた時の大きな成就感を。

◆これらの種目、そして集団行動を通じて、子どもたちには「人と協力して物事をやり遂げることの心地よさ」を肌で感じてほしいと願っています。ここで得た自信は、日々の学校生活はもちろん、これからの未来を生きる力にもつながるはずです。当日は、結果だけでなく、そこに至るまでの子どもたちの「挑戦のプロセス」に、温かい拍手と声援を送っていただければ幸いです。



話は変わり…

◆ある日、玄関近くの廊下で。

「明日、元気に来てね。待っているね。お大事にね。」…体調を崩し、早退する友だちにこのような言葉を送っている子がいました。それも、自然体で柔らかく。…大川小にはこんなに素敵な子がいます。聞いている側も温かでしあわせな気持ちになります。

